

中学校

オリジナルボールゲームを発明しよう

○目標となる資質・能力

規律性、道徳性、自治集団づくりに資する力、思いやり・他者理解

○指導のねらい

みんなが楽しめるようなルールを考えることによって、自治集団に必要な弱者へ配慮する心、みんなが楽しめることへの価値感を育む。

○準備するもの

ワークシート×生徒数、ボール数種類×班に1～2個、小型のホワイトボード×班数

○教育課程、実施時期

保健体育・特別活動

○留意点など

クラス全員の身体能力などの特性がお互いにわかりあえた上で行うこと

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の目標を知り、学習の見通しを持つ みんなが楽しめるルールを考えよう	・このクラスのみんが楽しいと思えることの素晴らしさを伝える
展開① 45分	2 「ボール投げゲーム」の基本ルールの説明を聞き、班内で基本ルールで行う 3 みんなが楽しめるルールを、試行錯誤しながら班で話し合う 4 決まったルールをホワイトボードに書き、班ごとに発表する	・1班男女混合6名程度 ・班に1～2個のドッジボール ・配慮が必要な生徒や、ボール投げが苦手な生徒など、みんなが楽しめるルールを考えさせる ・ルール設定の理由を重要視する
展開② 40分	5 班ごとにルールの手直しをする 6 手直ししたルールを発表し、全員でそのルールにしたがってやってみる	・他の班の発表を参考にさせる ・工夫されている点を探させる
まとめ 10分	7 生活においてもみんなが楽しめるルールづくりが大切であることを知る 8 本時の学習を振り返り、感想を書く	・「楽しい」という価値観を増やすことを強調する ・書くとしているが、状況に応じて、発表としてもよい

※2コマ分の授業としているが、実情に合わせて工夫して行う

参考

○「ボール投げゲーム」について

1対1で対戦し、ボールを交互に投げ合って、落としたら負けという簡単なゲーム。下記を基本ルールとして生徒に説明するが、とくに決まったルールがあるわけではないので、実情に合わせてアレンジしたものを基本ルールとしてもよい。

(基本ルール)

- ① 5メートルほど離れて向き合って立つ。
- ② ドッジボールを使用し、下から両手で相手に投げる。相手が取れない位置へボールを投げた場合は、相手ボールとなる。
- ③ 相手は両足を地面から離さずに、両手でボールをとる。
- ④ 「片手でとる」「両手をクロスしてとる」「片手に足をかけてとる」と、チャンスボールとなり、相手に1歩近づいて投げることができる。

○「ルール設定」について

ワークシートに基づいて、ルールを設定させる。下記の項目以外の設定も考えさせ、空欄の箇所に記入させるとよい。多種多様なボールが準備できれば、生徒の発想はより広がる。

(ルールの設定例)

- ・ボールの種類…ソフトバレーボール、ボール型のクッションなど
- ・離れる距離…ボール投げが苦手な生徒には近い方がよいが、近すぎるとボールをとることが難しくなる
- ・投げ方…ワンバウンド、転がすなど
- ・禁止すること…顔に投げる、ボールを回転させる、投げるフリをするなど
- ・勝敗のつけ方…ハンデ（2回落としたら負けとするなど）をつけるなど

○「楽しいという価値観を増やすこと」について

運動が得意な生徒にとっては、「みんなが楽しめる」ルール設定では物足らず、不満が出るのが予想される。そんなときは、厳しいルール設定の方が楽しいという意見を否定するのではなく、『楽しい』にも色んな種類があって、どれも素晴らしいんだよ。たくさん種類の『楽しい』を感じられるととっても楽しくなるよね」というように生徒の思いを大切にしながら受け止めたい。集団や場のルールを重んじ、自分の価値観との差があるものにも理解を示し、順応できる態度を養いたい。

○授業後の発展について

この授業の目的は、自分たちの力で、みんなのためのルールづくりをすることによって、弱者を含めたみんなが楽しめるとはどういうことかを実感させることにある。そこで、クラス全体で1つのオリジナルルールを決定し、そのルールでゲーム大会を生徒主体で行わせ、感想を共有するなどして、「自分たちで作った！自分たちで楽しめた！」という実感が増すような発展が期待される。

オリジナルボールゲームを発明しよう！

組 班 名前

ゲーム名		
	考えたルール	理 由
ボールの 種類		
離れる距 離		
投げ方		
チャンス ルール		
禁止する こと		
勝敗のつ け方		
みんなに 伝えたい こと		